ゐると、またも帳場が來て『パルチ』と怒鳴つたので、二人は逃げるが如くに其場を去つた。

この一夜はホテルの夢圓かならずである。露天の芝居見物に出かけて居る夢を見た。前方に觀衆が進出し過ぎて居るので。現場係は車を馬にひかせて、その勢で觀客を後退せしめた。後詰の客は前列の客に同情したか將た危險を感じたのか全觀客總立ちとなつて折角の芝居が見物人なしに演じられた。妙な夢を見たものだ。醒むれば夢は現實の一部である。只同情して呉れる後詰の觀衆をもたぬ點が相異してゐる。今日まで幾多の書物によつて伊國の文物を夢見てゐた。然るに馬車の勢で後退を強ひられても只後列の客の悅ばすに止まる。その悲しき有樣はこのホテルの對遇である。

同年五月頃には邦人のこのホテルに滯留するもの五六人もあつた。友人も二人あつた。生嚙りの伊國語の知識が禍して羅馬の第一印象は甚よくない。ホテル業者は一種の外交官なりとは兼ねて英國で催された世界のホテル同業者の大會で聞いた言葉であつた。これ位の旅の哀は伊國にあつては口外するに足らぬ淺さであることを翌々日同じく薄遇をうけたらしいポーランドの飛行將校なりと自稱する男の話によつて知つた時は益前途を悲觀しなければならなくなつた。羅馬を去る日列車内で件のポーランド將校と口を揃えて車内の伊國紳士に訴へた。

新著紹介

○地質調査所報告 第一〇五號 商工省著作

東京地學協會發行　昭和五年一月　定價五五錢

昭和三年度に於ける事業報告で、末尾に七萬五千分一地質圖幅功程圖を附す。昭和三年迄に出版濟のものは鉾田、銚波銚子、相良、多治見、足助、豐橋、伊良湖岬、設樂、鳥羽、岡山、庄原、今治、久萬、田石山、德山、室積、山口、小串の十九幅、調査濟のものは小坂、熊谷、八王子、東京、靜岡、*恵那山、野後、伏見、甲浦、*室戸、高知、*府中、尾道、松山、柳井津、*須佐、豆田。山鹿、鹿兒島、伊集院の二十幅である。因に*印を附したるものは昭和五年四月までに既に出版され、其他天草も出版濟、現今二四圖幅は出版されて

居るのである。

○地質調査所報告 第一〇六號　商工省著作　東京地學協會發行　昭和五年三月　定價壹圓五五錢

本報告は駒ヶ嶽火山噴火調査報文で赤木健技師の調査にかゝる。昭和四年六月一七日の駒ヶ嶽爆發は頂上部の火口底に存せし有史時代の火口が活動したもので、噴出岩屑が東より東南に扁して拋出されたるは噴火力强大であつた爲岩屑の高く拋出されたことゝ其質が浮石質であつたゝめ、氣流の影響を受け易かつたによるものである。浮石流は頂上より四周に流出し、岩質は岩屑と同じく兩輝石安山岩で浮石質なるを特徴とし從來の火山活動の際に噴出したるものと同じ。噴出物の容積は〇、四八八立方粁、駒ヶ嶽山體總容積の約六八分の一の多きに及ぶ。依つて地下密度を減じたるか、空虛を生じたるかを推測せしむといふ。附圖駒ヶ嶽火山噴出物分布圖、及頂上に於ける新火口、の二枚、其他寫眞圖版七枚を附す。

○地質調査所報告 第一〇七號　商工省著作

東京地學協會發行　昭和五年三月　定價二圓四〇錢

小坂鑛山調査報文、不老倉及四角鑛山調査報文、共に木下龜城技師調査の二報文を載す。小坂附近の鑛床は頭大尾小の特異の形狀を有し、黑鑛を中心とし、黃鑛、珪鑛之を取り卷き、鑛石は閃亜鉛鑛、黃鐵鑛を主とし、鑛床中には石膏、輝銅鑛、針鐵鑛等を見、アルカリ性溶液より比較的低溫に於て生成したることを想像せしむ。探鑛上留意すべきは薔薇森舊火山附近なるも、多くは既に探鑛され居るを以て、今後は既知鑛床を可及的有利に採掘する外、途なかるべしといふ。

不老倉及四角附近の鑛床は第三紀層並に是に迸發せる安山岩及石英粗面岩中に胚胎せる裂罅充塡鑛床であつて、各種鑛脈中、綠泥石銅鑛脈を主要なるものとす。從來の探鑛は不老倉本鎚より主として東に行はれたるも、將來に於ては西方の探鑛が必要である。

○室戸地質圖及說明書　商工省　東京地學協會發行

昭和五年三月　定價說明書四〇錢　地質圖壹圓四〇錢

七萬五千分一地質圖幅第二四七號及說明書であつて、鈴木達夫技師の調査にかゝる。侏羅紀の安藝川層は甲浦圖幅に廣域を占め、本圖幅中では頁岩を主とし、稀に砂岩を挿み、小地域に露出する。室戸層は頁岩及砂岩頁岩よりなり、一見甲浦圖幅中の安藝川層に類似するも、室戸津呂間の海岸に於ては魚骨其他一種の化石を產し、不完全なりと雖も本層の特質、又チャート中には放散虫の形骸あるものあり、侏羅紀(?)、彼の室戸半島は本層中の頁岩より成り、斑糲岩、輝綠岩により貫通せらる。奈半利川層は砂岩、頁岩、變岩より成り、室戸層とは斷層を以て接し、多分中生代末期又は第三紀初期と考へらる。四十寺山層は砂岩を主とし、第三紀鮮新層下部より古層に屬する。鮮新層は北張、西岡、六本松、登地方に臺地をなし、奈半利層、室戸層を不整合に被覆する。介化石有孔虫化石は北張に多數產し、武藏野層下部以前、遠州佐東

層の化石群に相當し、鮮新層中部のものである。（上治）

○惠那山地質圖及說明書　商工省　東京地學協會發行

昭和五年三月　定價說明書八〇錢　地質圖貳圓六〇錢

七萬五千分一地質圖幅第一六〇號及說明書であつて、石井清彥技師の調査にかゝる。本圖幅には御荷鉾層、上部古生層第三紀層の分布するあるも、各種の花崗岩及類似岩石多く、著者は之を十數種に分ち、閃雲花崗岩を最も古しとなし、片狀花崗岩、片狀兩雲母花崗岩と共に第一次の噴出岩とし、細粒黑雲母花崗岩、含角閃石黑雲母花崗岩、柘榴石黑雲母花崗岩は第二次の噴出岩で、閃綠岩、斑糲岩及輝綠岩等は第三次の噴出岩である。而して以上の各次の噴出岩と關聯して多くの貫入岩がある。これ等の噴出岩の噴出時代は中生代以後、第三紀以前なるが如し。

○府中地質圖及說明書　商工省　東京地學協會發行

昭和五年三月　定價說明書七〇錢　地質圖貳圓一五錢

七萬五千分一地質圖幅第二二一號及說明書であつて、赤木健技師の調査にかゝるものである。本圖幅は岡山圖幅の西、庄原圖幅の南に相當するもの、火成岩は圖幅内に廣域を占め、輝綠岩及蛇紋岩は古生代の迸出にかゝり、花崗岩は三疊紀末以後の噴出にかゝるものである。石英閃綠岩、石英斑岩は花崗岩と同一の酸性岩漿より分化したものでほゞ同時代と推定され、處々に第三紀層を貫く玄武岩は中新期乃至鮮新期以後の迸發に係るものである。

水成岩は上部古生層を最古とし、後月郡上鳴村よりは、Lonsdaleia floriformis crassiconus, Nagatophyllum satoi n. sp. 等を出し、下部石炭紀と同定され、川上郡高山村及大賀村よりは Neoschwagerina margaritae, N. Globosa, N. douvillei n. sp, N. multiseptata 其他の化石を出して上中部二疊紀と同定さるといふ。上部三疊紀層は植物化石、シウドモノチスを出し、兩化石層は同層位にあつて「ノーリック」統に屬すること從來の研究の如し。以上の古生層及三疊紀層と不整合に、處によりては千米の厚さを以て侏羅層（硯石層）が分布する。示準化石は未發見なるも曾て小澤博士は侏羅末期或は白堊初期の生成ならむかと考へた。第三紀層は八十米前後の厚さを以て臺地の頂上に發達し、ヴイカリアを出し、中新期乃至鮮新期に該當する。

○天草地質圖及說明書　商工省　東京地學協會發行

昭和五年三月　定價說明書壹圓一〇錢　地質圖貳圓四〇錢

七萬五千分一地質圖幅第三〇四號及說明書、納富重雄技師の調査に係るものである。最古の結晶片岩は石墨片岩、絹雲母片岩を主とし天草下島の西岸高濱大江附近に露出し、厚さ七五〇米以上を有する。二疊石炭紀層は本圖幅の東端、即ち九州島の西岸に小露出をなす。然れども圖幅外に於ては東方に廣く分布し、九州山系の要部をなすものである。厚さ二〇〇〇米を降らないものと考へらる。中生層の上部白堊紀は天

草の東部と西部に存在し、砂岩頁岩層、トリゴニア砂岩層、イノセラムス頁岩層より成り、御所浦島、獅子島等よりはトリゴニアの種類を多く出し、下島の西岸大江村に於てはトリゴニア・イノセラムスを產す。第三紀始新層は一局部に於て白堊紀層を不整合に被覆する處あるも大體に於ては整合に被覆し、暗赤色頁岩及變岩、變岩及砂岩（本岩層中には獅子島の北東端、下島東岸宮野河内村本郷南方に於けるが如く一米足らずの石灰岩を挾有し、其の中に貨幣石の化石を藏す）頁岩及砂岩互層、砂岩層（砂岩は白、淡灰色にして二〇〇米乃至三五〇米の厚さを有し、天草石炭は本層中にあり）海綠石砂岩層は常に炭層の上位五〇米内外にあつて多くの介化石を產し、示準層として地質調査、石炭の探礦によく利用さる。最上層は黑色頁岩層である。天草下島の北方には長崎縣茂木附近の植物化石と類似せる化石を產する地層が發達し鮮新層と考へらる。

以上の各層は斷層及向斜背斜の構造を有し、各種の火成岩の小露出があり、特にリソイダイトは大岩脈又は岩床をなし天草陶土の原料として大切なるものである。泥溶岩は數ヶ所に之を見るも本渡町の以北には鮮新層中に介在し、この存在に就きては既に納富學士が地學雜誌上に卓見を發表されて居る。

○鑛物調査報告　第三七號　商工省　東京地學協會發行

昭和五年三月　定價一圓九五錢

北海道に於ける三つの產炭地調査報文で、何れも鈴木達夫技師の調査にかゝるものである。茅沼炭田は後志國にあり、北海道で早く知られた炭田で幕末ブレーキ、パンペリー等を初め、明治六年にはライマンも調査したことがある。第三紀層下部砂岩中に三〇糎以上の炭層六層あり。埋藏量一、五八二萬噸にして、實收率を七割とせば其量一、七〇〇萬噸である

阿歷内產炭地は釧路國にあり、川上郡南端「アレキナイ」川及「モアレキナイ」川の流域を占め、下部第三紀層中に二炭層あるも、〇・四米以上に達するは一層であり「夾ミ」多く炭質は黑褐炭にして機關用、家事用に適すといふ。埋藏量僅少なるが如し。

糸魚澤產炭地は釧路國厚岸郡糸魚澤の北にあり、下部第三紀層中に三炭層あり、〇・二—〇・九米の厚を有し、賦存面積約五五萬平方米に及ぶ。炭質は稍劣り、厚さ變化し、未だ採炭されてゐない。

○關東構造盆地特に其の西邊部の地形及び地質に就いて

學術研究報告　第八、仙臺、齋藤報恩會學術研究總務部出版　昭和五年五月　非賣品

卷頭に於て、矢部博士は「大正十二年九月一日の關東大地震と地質構造との關係を研究中の余は其の附帶事業の一として最近の地殼變動を窺ふに必要缺くべからざる同地方の地形學的研究を企圖せり」と述べて居られる。本報告は右の研究の一つであつて、矢部博士指導の下に青木、田山兩理學士の

研究にかゝるものである。關東構造盆地は地形的には盆狀臺地であつて、この臺地には四段の著しい段丘の發達を見る。之を前多摩、多摩、武藏野、關東「ローム」段丘と呼ぶ。多摩段丘は多摩丘陵、狹山丘陵、並に淘綾地塊の大部に標式的に發達し、可成り著しく解析され、壯年乃至晩壯年地貌を呈す。段丘上にはローム層發達するも其の下位には砂礫を見ずして直に基磐岩に不整合を以て接す。武藏野段丘は相模臺地、秦野盆地、多摩入間の諸臺地をなすもので若年地貌を有し、ローム層と基磐岩層との間には砂礫層を見る。この兩段丘の地形地質的差異を生じたる主原因の探究は本論文の眼目であつて兩學士の研究せられし處によれば兩地塊の界線を軸とする地殼運動を廣義の成田層沈積中或は後、而も關東「ローム層」及びその下底を占むる砂礫層沈積前に生じたものである。

○房總半島の地形特に浸蝕面の對比に就て

學術研究報告　第九、仙臺、齋藤報恩會學術研究總務部

出版　昭和五年七月　非賣品

矢部教授指導の下に行はれつゝある關東地形研究の一部であつて主として田山理學士の研究にかゝる論文である。全篇を二章に分ち第一章は浸蝕面の對比、第二章は谷形、段丘に關する研究である。第一章は著者の最も力を費した所、ことに浸蝕面は時間の函數で岩石、層位、氣象、面の傾斜等に影響多しとなし、數學的に取扱つた處に興味がある。何故ならば動もすると地形の研究中には單に想像、又は獨斷に過ぎないと思はれる樣なこともあり易いのであるから、田山學士の樣な量的研究法で進んで行けば科學的價値を一層高調せしめる可能性があるからである。因に學士は丹後但馬震災地方に於て、會て詳細な研究を試みられ學術研究報告第六號に發表されて居る。（以上、上治）

○大島幸吉　佐々木衛　共著　水産化學實驗法

昭和五年五月十日

丸善株式會社發行　定價二圓八十錢

本書は北海道帝國大學附屬專門部に於て教鞭を執られる大島、佐々木兩氏がその豐富なる多年の經驗に基いて編纂された菊判三二四頁の水産化學に關する實驗法を述べたものである。著者が卷首に一言されたやうに水産專門學校をはじめ、大學、高等程度の學校で水産化學の教科書或ひは參考書として有益なるものである。

本書は全部を四編に分ち、更に各編を章に分ち、各章には之に關する主要な參考書を掲げて本書のみでは理會し難い場合之を補ふに頗る便利に出來てゐる。又索引も添へられ挿圖は三〇もあり、行文は平易且つ丁寧である。第一編は總說として一般化學分析に關する準備として試藥硝子器具、容量器具、天秤や加熱分別操作を詳しすぎる程懇切に說明してある。第二編は無機及び有機物の定性分析を述べ、金屬の分離檢出も簡單な表で表はし便利に出來てゐる。第一編及び第二編は初學者のために親切に書かれたもので、高等學校で一般化學實驗をしたものには不要である。第三編は無機物定量分析と

し先づ容量と重量との二章に分けられてある。容量分析に於て實驗に關する說明は十分であるが、も少し酸化、還元、アルカリ及び酸滴定法や沈澱法の理論的方面と指示藥の理論を入れて欲しい氣がする。重量分析の方は水產化學に必要な金屬と酸根を述べてある。その應用として、第三章は水の分析第四章は食鹽の分析、第五章は海水分析を詳說してゐる。この第三章から第五章迄が地質鑛物學方面のものに有益な智識を與へて呉れる。殊に水の分析に於ては水の採集法や浮游物質や種々の金屬やハロゲンや酸根の定量法を述べ、又硬度の測定法を調へてゐる。その他水素イオン濃度溶解性、酸素、遊離炭酸の定量法を述べ、飲料水や養殖用水の鑑定の標準も說明されてゐる。第四編は有機物定量分析と膠質化學及び酵素試驗法が略說されてゐるが、その第三章に水素イオン濃度測定法があつて、これは吾々にも重要な事項である。

要するに本書は水產化學界に初めて發表された邦語の書籍であつて、その內容には長短よろしきを得ない點もあらうがこの方面に貢獻するところは多大なものであると信ずる。茲に著者の努力に感謝しかゝる方面に興味を有せらるゝ方に一讀をお勸めする。猶ほ地質學界にも地質化學分析法とでも題する岩石、土壤、水、溫泉、鑛物等の化學分析を簡易に說明した邦語の書籍が一册位刊行されてもよい時機であると紹介子は痛感する。（原日）

○地理學の概念

オットーグラーフ著　國松久彌譯

古今書院發行

本書は地理學を歷史學と自然科學との橋渡しの科學であるといふ見地から說述されたものであつて、地理學と哲學。課題の意義。全科學分野に於ける歷史學と自然科學。地理學と歷史學。地理學と自然科學。獨立科學としての地理學。地理學の認識價値と敎育價値といふ七章に亙つて精細な譯述があり、章每に註解と參考書とを列記した菊版二三八頁の册子である、いづれにしても獨逸の學者はかうした理窟を云ふことを好むとみえて、結論に達する迄の道行の長いことは多くの他の類書と趣を一にしてゐる、殊に獨逸語のかやうな哲學的のものを日本文に譯出する場合に於て更らに一層その缺點が暴露される、しかし其の結局としては地理學には自然科學の方面と人文科學の二方面があるといふことを明にくだ〳〵しくかいたまでゞある。我々は本書から新らしい地理學の進みゆく途筋を指示されたとは思へない、たゞ六ケ敷く云へば云へるものだと感服させられるのであつた。（藤田）

○山崎直方博士記念論文集

地理學評論　第六卷第七號

東大地理學敎室內日本地理學會は、其創設者であり恩師であつた故山崎博士の學績を偲び、こゝにこの菊版六八九頁の大册子を刊行し之を同博士の靈にさゝぐと致した、筆をとるもの友人及門下合せて四十五名の多きに達し、嚮然たる學林の壯觀を示めされたことは誠に慶賀に堪えない、殊に本集をみて著しく眼につくことは居住地理及人文地理に關したもの

が十六篇の多きをしめし、近來の地理學研究の潮流を反映してゐることである、山崎博士には、經濟地理の講義や西洋又南洋等の著述に於て、夙に人文地理學へも、その棍の方向を取られた遺業?があつた、門下俊才輩出してさうした方面に將に出色の成果を結ばんとすることを豫見して、こゝに本書の公刊を祝福しておきたい。(F)

○我が住む村　秋田縣南秋田郡旭川村　旭川小學校出版

秋田市の東北で、秋田市の水道源になつてゐる旭川の溪谷にそうて出來た一村の地誌である、鄉土地誌研究の奬勵さるゝ今日、本書のごとき出版は歡迎されねばならぬ。著者柴田良一氏はさきに横手町の地理を書れたのであるが、本書に於ては前半は地圖又は略圖を以て巧にこの小さい村の地理區とその生活とを解說し附錄として鄉土をしらべる問題があつめられてあり、更らに詳密な統計や方言集がついてゐる、他鄉のものと雖もこれによつて村勢の大體を攝摩することが出來るのもうれしい、最後の座談會の談話の中にはこの質朴な田舍の生活にピッタリ協調し且之に同情してゐない訓導のあることをつげるのはどうであらうか、これは必しもこの村の先生のみではないが、田舍の先生は自分でモツペをはいてもよからうではなからうか、之を見て變ですねなどいふのはいけません。(藤田)

○八重山古謠　第二輯　宮良當壯解說　宮良長包採譜

鄉土研究社　定價一圓八十錢

王朝時代から鎌倉時代にかけて、盛んに用ゐられてゐた言語や語法が、現代國語に於ては、全く廢絶してしまつたのが本書に於て發見し得られるのみでなく、現に八重山では日用語として使用されてゐる。從つてさうした古代國語の意味も亦本書によつて解釋さるゝ處が多いのを多とする。(F)

○パラウ語の研究　松岡靜雄著　鄉土研究社出版　定價三圓

南洋研究の著者がさきに發表されたチヤモロ語、中央カロリン語、マーシャル語等の姉妹篇であつてミクロネシヤ語系の言語學的研究の一成果である。これによつて本島民がフィリッピン、マレー、メラネシヤ諸語の影響をうけてゐることを明にされた。(F)

○蝸牛考　柳田國男著　刀江書院發行　定價一圓五十錢

本書は言語誌發刊の一本とし出たもの、菊版百五十頁の手輕いものである。しかし讀んでみて面白いカタツブリ、マイマイ、デンデンムシ、といふ同じ動物のちがつた方言分布を考へたものであつて、言語學者には歡迎せられるであらうと思ふ、同時に人文地理や土俗學を好む人にも一應は讀まれねばならぬと思ふ、本書は三年前に人類學雜誌にのせられたものゝ燒き直しである。燒き直しであるが、其後更らに補はれたところが多いから、燒き直しだといつて之を輕視してはならぬ。

序に言語誌叢刊はすべて一圓五十錢本であるが非内語及解

釋、南島方言資料、壹岐島方言集などいふ三册も既に出刊されてゐることを報告しておく。（藤田）

○Bibliography on Magnesite Deposits of the World　新帶國太郎著　菊版百〇七頁

各國別に文獻目錄を記したもので著者と書名を並べてあるマグネサイトに關してもこれ丈け多數あると云ふことが明にされて、著者の努力を多とせねばならぬ、非賣品らしいが滿鐵地質調査所の著者にたのめば、實費で頒與してくれるものと信ずる。

雜報

○フイリツピンの産業　フイリツピンは今尙必要品の全部を輸入し、其輸出の九割までは原料品である、これは西班牙治下三百年間其工業の發達が停滯し、人民が天惠になれて慾望を起さなかつた結果である、しかし米國の政治をうけて以來、舊式な農業もしくは舊式の工業は、次第に陶汰されて工業機械は隨所に据ゑつけられるやうになつた、今その大體を見ると、第一砂糖業、數年以來半農狀態を脫し動物の力で製糖してゐた舊式から現代式にかはつた、一九一〇年に近代式製糖工場が出來今日ではその數四十、一日の總能力は四七、六三〇米噸に達した、比島到る所で甘蔗をつくるが工場はネグロス島、パレパンカ、バタンガス、ヌエバエシバ、タルラク、パンガシナン地方に局限される。

二、烟草製造　この事業は一七八一―一八八二年に至る長い間政府の專賣であつた、其收入が政府の歲入の五割に上つた、現在でも其製造工場へ送くられる良烟はカガヤン河谷地方から出る、この名は朱印船渡航地名のうちに既に我國に知られてゐた名である。今日も優良な葉卷がでる、工場の數全國で九二、紙卷工場は二九、使用職工は五萬人、カガヤン以外の地でも烟草の産は多い。

三、椰子工業　本業は比島人生活の大部分をしめ、輸出第一位をしめす、椰子工業の重なものは、コプラ、椰子油、油片椰子肉、植物性ラード、菓子及菓子原料の製造である、大部分は家内工業であり、コプラ年産額は約四一〇、〇〇〇米噸である、大戰以後搾油工業が發生し其壓搾量はコプラ全産額の五割に達する、その製油額は年に一五〇、〇〇〇乃至二〇〇、〇〇〇米噸に達し其副産物にコプラケーキがある。

四、アバカ工業　マニラ麻の壓搾は四十ケ所麻挽は三、四〇〇ケ所で行はれる、これも大部分は家内工業である、製綱業はマニラの三大工場に盛であつて年額二〇、〇〇〇噸に達する。猶又少數の都市ではこの繊維で織物をつくる、比島婦人の被服に供して市場に出でない。

五、刺繍　大戰のために促進されたものゝ一である、今日はマニラ市内外で五萬人からの婦人が從事してゐる、米國人の資本で行はれてゐる。